

IV. 最後に

台湾師範大学生の受け入れから、台湾での研修と日々が怒涛のように過ぎ去っていったが、得るものは大変大きかった。台湾師範大学生の受け入れの際には、台湾と日本との英語教育の違いに驚きつつも、彼女たちの英語力に身のひきしまる思いだった。また生徒たちにとっても異文化交流だけではなく、日本語が使えない先生に英語を教わるというなかなか体験できない授業を通して、何か響くものがあったのではないかと思っている。台湾研修に関しては、外国の英語の授業を現地で見させていただくという貴重な体験を通して、様々なことに気付くことができた。

このプログラムが成功を収めたのも、このプログラムに関わった方々皆が「成功させたい！」という強い思いを持っていたからであり、その一端を担えたことに大変な喜びを感じている。台湾師範大学の梁孫傑教授、曾文鍵副教授そして、5人の学生たち (Melody, Lisa, Tina, Anita, Sandra)、授業を見せてくださった Victor Ming-Ta Wu (仁愛中学校) と Lena Yu-Hsuan Chao (台湾師範大学附属高等学校)、そして金沢大学の山本卓教授には本当に感謝をしている。また、研修に行く環境を作ってくくださった本校全教員にも感謝を述べたい。